

キャリア支援に欠かせない基礎資料としての “厚生労働省編一般職業適性検査”



かしわ地域若者サポートステーション
総括コーディネーター 林 真理

全国177か所ある地域若者サポートステーション(愛称サポステ)は、ニート等の若者の職業的自立支援するため個別的・継続的な相談、各種セミナー、職業体験など総合的な支援を行う。

かしわサポステは厚生労働省と柏市の委託を受け認定NPO法人キャリアデザイン研究所が運営している。
(所在地:千葉県柏市柏下66-1 柏市保健勤労会館2F)

地域若者サポートステーションは学生を除く15歳から49歳までの無業の方を対象とした就労支援機関です。不登校や中退、ひきこもりなどで社会経験のない若年層から高学歴で職業人経験のある人や就職氷河期世代に至るまで、利用者の目標やスキル、キャリアが幅広いのが特徴です。

共通するのは、何らかの理由で就職や転職に自信がもてず相談に来られること。自分に向いている仕事、やりたい仕事、経験、スキル、体力等が足りないといった「働くことの悩み」について個別相談や就労後の定着支援を通じて職業的な自立をサポートしていきます。また、支援プログラムとして就活向けのセミナーに加え、企業説明会や職場見学・体験、スキルアップ講座(コミュニケーション、ビジネスマナー、ストレス対処、メンタルヘルス、PC関連)などを提供しています。

マッチングの基礎資料に

かしわサポステでは客観的指標を用いて適性を判断できるよう2011年にGATBを導入し、現在までに2千人以上が使用しています。ホランドの適職診断(RIASEC)も組み合わせ、登録者全員を対象に随時実施、また、ハローワーク出張相談でも月2回希望者に実施しています。

検査結果は個別面談で1時間かけてフィードバックします。対象者が自



講座の様子

キャリア相談におけるマッチングの精度を高めることが目的です。

「結果の見方・生かし方」の生かし方

GATBは比較的安価で特別な訓練を受けずに実施できる、使い勝手の良いツールですが、検査後も、支援者として関わるほどまた多くのケースを経験するほど理解が深まり、一人ひとりに合わせたフィードバックができるようになります。

例えば、職業経験がない若年層は漠然としたイメージで仕事を選択しがちです。「結果の見方・生かし方」の職業群一覧表を用いて具体的な仕事の内容、必要な能力・スキル、やりがいや難しさなどを伝えていきます。

また、仕事が合わず離職に至った人には苦手な作業とGATBの結果をすり合わせ、課題を話し合った上で適応しやすい職種や作業内容・環境を助言します。さらにRIASECと組み合わせ、能力面だけでなく、仕事への興味や面白さといった心理面(やりがいになるか不満や苦痛になるか)も職業選択の鍵であること、仕事のミスマッ



個別相談

チは離職やメンタルヘルス不調の原因となりやすいことなどを説明します。GATBの結果は必ずしも学歴とは一致せず、不登校や中退経験があっても得点が高く、仕事を通じて成長を期待できることもあれば、高学歴の人でも得点が低く出る場合もあり、本人に困り感があるときは時間をかけて専門機関につないでいきます。

注意すべき点として、GATBで測定しているのは適性能力という能力面のため、点数だけで判断すると正しいマッチングができないことが挙げられます。GATBのスコアは高いけれど、コミュニケーションが苦手であったり、マルチタスクや急な変更に対応できない場合、結果として職場で不適応になるリスクが高まります。

個別相談で適切なフィードバックをし、足りないところを補えるように一緒に考え、モチベーションを維持するように心がけます。「意外なところに適性があるって興味を湧いた」「知らない仕事がたくさんあった」「できることが見つかった前向きになった」「適性は低いけれど頑張りたい」などの感想が示すように、GATBはあくまでも自分を知る手がかり(基礎資料)であって、そこからキャリアコンサルティングが始まるともいえます。

近い将来、AIやリモートワークが働き方や仕事そのものを大きく変えていくとしても、自分の適性に合った職業を選択することはキャリア形成にとどまらず、個人のQOL(人生の質)にとっても大切なことだと思います。